

令和5年度事業報告

今年度は、4月から契約額や会員数も前年度並みに推移しておりましたが、令和6年1月1日に起きた能登半島地震で内灘町でも未曾有の大災害となり、当センターの前を走る県道松任宇ノ気線沿いでは広範囲にわたって液状化による住宅の傾斜、道路の隆起などが見受けられました。

地震の影響により、年度後半にかけて仕事の受注は減少し、会員の退会が増えました。12月までは、行事・イベントなども開催されておりましたが、1月以降は中止を余儀なくされました。

このような状況下においても、「高齢者の生きがいづくり」をサポートできるよう会員の拡大、就業機会の確保に努めました。

また、会員及び役職員共に魅力を感じるシルバーであるよう努め、女性向けの「いきいき美容教室」を開催したところ大変好評でした。これをきっかけに、これからも目新しい企画に挑戦しつつ、1人でも多くの会員が生きがいや楽しみを感じて、元気に就業できるよう、以下の事業を行いました。

1 組織運営体制強化

地震の影響は見通せませんが、お客様のニーズにお応えするための会員増強が課題となっております。

(1) 会員増強

- ・町広報誌を活用した新規会員の獲得を目指した。
- ・女性限定入会説明会の開催しました。
- ・ハローワーク金沢及び津幡での高齢者向け説明会を継続しました。
- ・講習会と連携した会員入会の促進を行いました。
- ・魅力のあるチラシ作りに励みました。

(2) 事務局体制強化

- ・役員・会員で構成された専門委員会による事業運営の取り組みを行いました。
- ・県内外のシルバー人材センターにおける運営状況をリサーチし、フィードバックできるか検討しました。
- ・事務作業の効率化を行いました。

(3) 会員による自主運営確立推進

- ・研修費を活用し、資質・技量のある会員養成を行いました。
- ・技術技能分野の後継者育成を行いました。
- ・専門委員会による事業企画を行いました。

2 就業機会の開拓

自主財源確保対策の最重要課題として、受注活動の拡大に努めました。

- ・ ホームページ及びスマホの活用による周知を行いました。
- ・ 石川県シルバー人材センター連合会と連携した技能講習会参加を行いました。
- ・ デジタル推進委員によるスマホ教室を開催し、デジタル化を推進しました。
- ・ 内灘町及び内灘町社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携しました。
- ・ 内灘町と連携した「空き家管理業務」の周知及びふるさと納税返礼における「お墓清掃代行サービス業務」の周知を行いました。

3 安全・適正就業に関する意識・知識の向上

会員各自が、「自分の命は自分で守る」という安全に対する認識を定着させ、事故0件センターを目標としました。

- ・ 各作業班による朝礼・終礼の徹底を行いました。
- ・ 安全・適正就業委員会を中心とした現場パトロールの強化を行いました。
- ・ ヘルメット、カラーコーン、安全ベストなど保安用具使用の徹底をしました。
- ・ 「いきいき通信」を活用した安全就業の啓発・情報発信を行いました。
- ・ 「安全ワッペン」の普及徹底を行いました。
- ・ 「適正就業ガイドライン」の遵守を行いました。

4 普及啓発活動

コロナ過で、できなかった啓発グッズの手渡しを再開しました。

- ・ 「新鮮野菜市」開催によるシルバーPRを行いました。
- ・ 普及啓発月間中における除草ボランティア他PR活動を行いました。
- ・ ポイントシステムと連携した一会員一就業先開拓運動の継続実施を行いました。
- ・ 折込チラシによるシルバー事業の周知を行いました。
- ・ シルバーの活動内容をお知らせする「わくわく情報局」の発行を行いました。

5 その他

- ・ 内灘町シルバー人材センターの特色を生かした新規事業の模索を行いました。
- ・ 家事福祉援助サービスの拡大を模索しました。
- ・ 派遣事業の拡大を模索しました。
- ・ インボイス制度の方向性を会員へ周知しました。